

淡路満蒙開拓団の一員として

～武内千代美さんの人生から～

淡路ふくろうの郷で暮す武内千代美さん(大正十二年十二月生九二歳・旧緑町出身)は、入所當時、「家の畑はどうなっているのだろうか?」といつも気にかかれ、ふくろうの郷周辺で雑草が生えているのを見ると一時間も草を引き続けられることがありました。おのころの家に通所していた頃も早朝から草刈りを済ませてから送迎を待つということが多いそうです。『働き者』という一言では片づけられない武内さんの人生についてお聞きしていく中で出てきたキーワードが「満蒙開拓団」でした。

前号でも紹介しましたが、武内さんは「淡路満蒙開拓団」の一員として



武内千代美さん

お父様と一緒に満州へ渡り終戦まで過ごされました。武内さんが関わっていた「淡路満蒙開拓団」についてもっと知りたいという思いから、五色在住で毎年「戦争体験から学ぶ会」を主宰しておられる高倍昭治先生に教えを請いました。高倍先生の叔父様は、満蒙開拓少年義勇兵という武装移民に志願し、後に錦州淡路村にも加わり、更にはシベリア抑留の経験もお持ちです。その方の体験も交

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>

台風一過の9月9日(金)、地域交流会のみなさんとともに作った案山子10体が施設を飾りました。9月1日は防災の日。つい先日東北・北海道に台風10号が上陸し、大きな爪痕を残しました。高齢者グループホームの11人など、多くの尊い命が奪われました。もっと生きたい。平和のうちに。今年のおくろう祭りのテーマです。



えながらお話しいただきました。それによると、淡路開拓団は、五色の広石村の元村長であった円丁(えんちよう)誠一氏を団長に、五色町や緑町など累計96戸の世帯が移民、錦州というところを『開拓し「淡路村」と名付けられたとのことです。(下図参照)

終戦後、皆で引き揚げてくることなるのですが団員に犠牲者をほとんど出すことなく引き揚げることでできたのは錦州が南方で地理的に有利だったことだけでなく、円丁氏の尽力のおかげでもあったようです。過酷な経験を乗り越えて生きてこられた武内さんや先人たちに敬意を表す。

お誘い合わせて、たくさんのご参加お待ちしております!



第11回 ふくろうふれ愛まつり

日時:平成28年10月23日(日) 10:00~15:00
場所:淡路ふくろうの郷、中川原ふれあいセンター
テーマ:生きたい! 平和に 自由に 楽しく 友と!!





前迫綾子

生年月日：昭和4年10月20日
出身：和歌山県
若いころはろうあ運動に参加し、和歌山の女性の自立に尽くされた。旅行がお好きだったようです。「淡路も観光してみたい」とおっしゃる。

勝楽佐代子

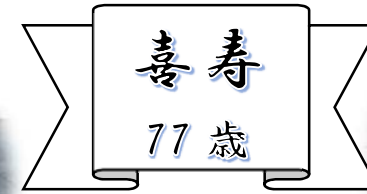


生年月日：昭和15年2月18日
生い立ち：京都府生まれ、兵庫県の稲美町で生活「旅行に行ったり、もっと行事に参加したい。」出前講座でもっと「子供を産みたかった」という思いを伝えたい。



櫻木貞信

生年月日：昭和15年2月18日
生い立ち：徳之島生まれ、神戸で生活徳之島での生活を聞くと、闘牛のことや黒砂糖工場のお話をされる。神戸では、同郷の仲間と一緒に旅行に行ったり、行事に参加したりしていた。



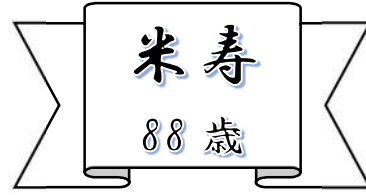
藤本紀代

生年月日：昭和15年11月8日
出身：三重県
料理講座にもっと参加したい。盲ろうだけど体は元気！いろいろなところに旅行に行って、美味しいものを食べたい。毎日、散歩をして足腰をきたえている。三重県に行って、お墓参りをしたい。

中村實



生年月日：昭和4年12月18日
出身：兵庫県高砂市
趣味である絵画やぬり絵を楽しんでいる。「見たものをもっと描きたい」とおっしゃる。東京に行った時に見た風景やお寺などの絵をふくろうに飾っている。ぜひ、見に来てください！！



黒崎時安

生年月日：昭和4年9月2日
出身：兵庫県神戸市
好きな釣りにまたいきたい。おいしいごはんを食べにいききたい私の人生のDVDを友人に広げてください。ふくろうに焼夷弾の模型を飾り「戦争は嫌だ！」という思いを伝えたい。



梶内嘉蔵



生年月日：大正7年2月16日
出身：兵庫県淡路市
「梶内だんじり株式会社」を長年経営されてきました。父が考案した刺繍の技術を15歳から受け継ぎ70年以上職人の道を歩んできました。平成15年度県ふるさと文化賞を受賞されています。

伯井信良

生年月日：昭和12年5月11日
出身：兵庫県播磨町
落ち着いて生活していただけるよう支援していきます。6歳頃に空爆で耳が遠くなった。道路工事の白線の材料を作る会社など、転々としながら必死に働いた。

山田幸正

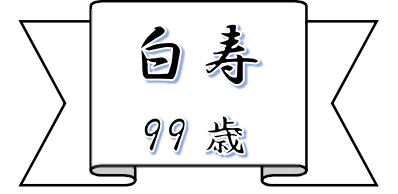


生年月日：昭和4年1月9日
出身：兵庫県神戸市
仕事は、理容師一筋で頑張った。「みんなとおしゃべりを楽しみたい」とおっしゃる。

前田千鶴子



生年月日：昭和4年5月9日
出身：京都府
京都に行って、お墓参りをしたい。京都では、家の近くに錦市場があって毎日、買い物に行っていました。また行きたい！！



バリデーション講演会

8月22日〜23日に、関西福祉科学大学の都村先生をお招きしてバリデーションの研修会を行いました。

バリデーションとは認知症を有する方の感情に共感し、人生でやり残したことを解決する手助けをするコミュニケーション法です。都村先生は全国を飛び回ってバリデーションの目的である「本当に寄り添うケア」「認知症のお年寄りに真に共感すること」についての研修や講演を続けておられます。

23日ユニットにて朝から各ユニットを回って職員の間談に乗っていただきました。帰宅願望がある方、認知症が進行して分からないことやできないことが増えて苛立ったり落ち込んでしまう方など、先生にご本人と会っていただいた上でアドバイスをいただけた貴重な機会になりました。また、実際にバリデーションの技術を使って入居者さんとお話をさせていただきました。

先生が、入居者さんと同じ表情、同じ姿勢、同じ動作をしながら、感情をくみ取って言葉を繰り返したり質問をすることで、初対面であるにも関わらず、楽しそうにお話をされたり、いつもよりも口数が増える様子がありました。



バリデーション講演会

午後からはバリデーションの基礎を学ぶための講演をしていただきました。講義の後には、職員から「相手と同じ表情や姿勢を取ることがバリデーションの技術の1つだが、介護の仕事をする時には常に笑顔でと教えられた。怒っている相手に対応する時には自分も怒った顔をされた方が良いのか」と質問があり、先生からは「自分がとても悲しい時やとても怒っている時ニコニコ近づいてくる人に本音を話す気にはならないはずだ。自分自身の感情は横に置いて、あなたは怒っているのですね」ということを表すために自分も怒った表情をする。」と教えていただきました。

書籍の紹介

都村先生はバリデーションについての本も出版されています。「バリデーションへの誘い」「バリデーションワークブック」どちらも非常に読みやすくわかりやすく書かれています。一度手にとってみてはいかがでしょう。(発行：全国コミュニケーションライフサポートセンター 価格：¥1600+税) お問い合わせは淡路ふくろうの郷まで。

**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

**センター20年の
歩みとこれからの展望**

当センターも設立から20年目を迎え20周年記念事業に取り組んでいます。

8月27日、午前、センター設立になにかと協力いただいた全国手話研修センター常務理事の小出新一氏に「手話言語条例と障害者差別解消法」というテーマで講演いただきました。

午後は過去から学び、今後の展望に繋げるべく設立や運営に熱く関わっていただいた方々に「参加いただき座談会を開きました。

**設立への熱い思い・・・苦
労とは感じず**

淡聴協の斉藤勇会長が「当初は淡聴協が行政から事業を委託されたため、会長とセンター長を兼務することになった。」開設まで島内1市10町に何度も要望に回ったり、交渉が夜中になるなど苦勞

したが、開所にこぎつけ嬉しかった。今後南あわじ市、淡路市で集まれる場所がほしい、手話言語条例も作ってほしい。当時洲本市福祉課長だった広地タマへ氏は「1市10町の調整は大変だったが、私自身もいろんなことを学べたかった。いろんな人の協力で開所を迎えられ、聞こえない人が安心して



**センター設立の熱い思いを引き継ぎ
人権・暮らしを守る拠点としてさらなる発展を**

駆け込める場所ができ嬉しかった。

**信頼される拠点へ・・・行政
の協力があつたからこぞ**

開所当時からのろう相談員の吉川稔氏は「家庭訪問しても家族がろう者を隠したり、追い返されるなど理解を得られなかったが、訪問を繰り返して、信頼される拠点となった。命に関わる病や悩みを持つている方、老人ホームに入所していたが、『壁と話す』など孤独で訪問を心待ちにしているろう者もいた。それに気づいてから一生懸命やりました。」

センター設立のけん引役となった湊百江氏は「震災後、ろう者が財産を勝手に処分されたり、手遅れで亡くなる方などをお世話する中でボランティアでの限界を感じ、何としてもセンター設立が必要と頑張った。広地課長は厳しかったが、人件費や備品など何かと協力してくれありがたかった。」

先輩たちの頑張りに影響され
橋詰一則氏は「先輩の頑張りを見て運動に関わった。会社を辞め無認可作業所を立ち上げ、今はおここの家の管理者をしている。ろう者が安心して集え、また通所

する中で仲間が変わっていく姿を見るのは嬉しい。新たな資源も作っていきたい。」

淡路の取組に改めて感動。全国に取組発信を

小出新一氏は「淡路からフアックスの長いロール紙がよく届いた。当時、県レベルでも情報提供施設が少ない中で淡路にセンターができたことは全国に誇れること。ろう者の問題を行政と一緒に考えてもらう、その姿勢があつたから実現できたのだと思う。センターの20年の実績を全国に発信していく責務がある」と。淡路ふくろうの郷施設長の矢野氏は「いこいの村の施設長をしていた時、湊さんが石田さんというおじいさんを連れてきた。その時から関わり。情報保障以前の課題、人権が奪われ、困っている人がいる、放っておけない、そういう視点があつた。今後は高齢難聴者やろう児難聴児の問題にも取り組んで行くことも必要」。今後の展望など話が尽きないほどでした。座談会の詳細は20周年記念誌にまとめます。

ひょうご聴障ネット 夏の学習会 8/28

場所：新長田勤労市民センター

当事者発言では、ろう者の立場から同じ会社で働くKさんとSさんが「入社して以来、1年ごとに契約更新、ずっとパート並み賃金、福利厚生にも正職員と差がある。労働組合を通じて正規職員にしてほしいと要望を続けてきたが相手にされない」またKさんは、子供に誇りをもって父の仕事のことを語れない、子供の学費等で生活が大変と訴えました。

講演では、藤原清吾弁護士が障害者差別解消法、特に雇用関係における差別の禁止と解消については改正雇用促進法で規定されている。相談や調停など紛争解決の制度もあるが、まずは自分が声を上げること。差別事象を集め学習を深め、権利を守る仕組みをみんなで作って行こうと結ばれました。

人事異動のお知らせ

9月1日付けで下記のとおり人事異動がありました。

《転入》

センター長 川道 考子
 鈴木 晃司
(淡路ふくろうの郷より)

《転出》

センター長 辻 愛子
 竹内 マリ子
(淡路ふくろうの郷へ)

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2



食堂でどんな食事ができるか...
乞うご期待! (写真はイメージです)



2016/09/06 13:27

地域めいこ「やへら食堂」(仮称)「を

皆様方の多大なるご支援のおかげでふれあいセンターの開設4年目を迎えることができました。当初は「おたがいさま中川原」「ふれあい広場桜ヶ丘」の2活動だけでしたが、今ではその他に4事業展開し地域の方はもちろん、多くの方に利用いただき交流を深める場となっております。

今後の進捗についてはこの紙面でご報告させていただきますが、お気づきの点や「こんなのができればいいな」などの意見ございましたら一声いただければ幸いです。(濱田)

「栄養改善」「口腔機能の向上」の取り組み

(神戸ろうあハウスティサービスセンター)

今後により多くの方に親しんで利用いただくため、現在新たな計画をふれあいセンター運営委員会内でも検討中です。第1弾として“食”を通じた交流の場「さくら食堂(仮称・案)」を検討しています。

内容に関してはまだまだこれからですし、皆様方のご意見を取り入れながら進めたいと考えています。

「口腔機能の向上」は口の中の清潔を保つ方法(歯磨き、入れ歯の手入れ等)とその必要性。「歯周病」の予防に関して、清潔を怠った時の体への影響、引き起こす病気などをお話します。どちらもカードや実物、絵等、見

て分かる工夫をしています。介護予防が始まって約10年、その間、何度も同じ話の繰り返しです。高齢者は話を一度聞いても、その時、分かったつもりでも実際は分かっていたい。その時は覚えていても時間が経つと忘れる。あるいは、間違った記憶で、そのまま習慣付



ろうあハウスデイサービスでは兵庫と灘で介護予防事業を取り入れています。「栄養改善」と「口腔機能の向上」です。生きがい型デイが行う介護予防の「栄養改善」とは低栄養改善という意味です。高齢になると、油物やお肉は駄目と思いつみ、あっさりした食事が良いと野菜中心の人が多いです。また、長年の偏った食生活で見た目は普通でも栄養不足の人もいます。

まずは、皆さんに気付いてもらうことが大切です。また「口腔機能の向上」は口の中の清潔を保つ方法(歯磨き、入れ歯の手入れ等)とその必要性。「歯周病」の予防に関して、清潔を怠った時の体への影響、引き起こす病気などをお話します。どちらもカードや実物、絵等、見

利用者の健康

(共同作業所神戸ろうあハウス)

神戸ろうあハウスが開所して、17年経ちます。設立当初20代、30代だった人たちは今は、40代、50代と立派な中高年になりました。歳を重ねると心配

になるのが、健康です。毎年、健康診断を実施し、通院が必要な仲間たちの通院支援もしてきましたが、食事や運動、生活習慣が原因で発症する生活習慣病の予備軍が沢山います。ほぼ、自宅と作業所だけの生活環境では、当然運動不足になります。好きな物を好きな時に食べべ

てしまうなかもいます。だんだんと新陳代謝も悪くなって、体重の増加も目立ちます。体のこと、病気の怖さなど、学習もしてきて、その時はな

まも「やせなあかんあ」と言いますが持続が難しい。これから、痛い苦しい病気になるための「予防」をどう理解してもらえらるか、学習の方法など工夫していきたいと思

います。また、口腔ケアの学習では、歯磨きの方法も難しいですが、丁寧に教えて頂いています。「みんな元気です！」を目標に頑張ります。(野村)



続々・地域を語る

中川原むかし話

かるた 口説き

NO26

北岡 肇

ぬくもりが つたわる

鯉の恩返し

中川原村史の原稿を紫光学園の藤井格三園長より送られてきますと、私が浄書して印刷所へまわしている

とき、(昭和30年前後)村の古老から「こんな面白い話きいとのんじゃ、

ありもせん話、村史にかいたらアカンぞ」といわれ聞かしていただいた。言葉を続けて古老は「殺生したらアカン」という生活の中での道理を教えたもの、子ども達に受け継ぎたいです」と結んでいました。

あるところに興平さんという一人者がすんでいました。米や麦を作り、牛と仲よく暮らしていました。ある日のこと、朝から降り続いた大雨もあがり夕さがり夕飯のこしらえにお金をもって出かけて行きました。

池はヨケをはき、川はあふれて道端の草を洗っている。一匹の鯉がバ

タバタのた打っている、そこへ通りかかった興平さん「ウワア、きれいな鯉や、可愛想に」と言って捕まえて、上の池の堤まで行って放してやりました。

そして次の日夕暮れどき、きれいな娘さんが来られて「山の上のお寺さんへ行きたいのですが女の足ではとてもムリです。どうか一晩のお宿をさして頂きたいのでわしが・・・」とのこと。

見てのとおりワシは一人もの。どうぞどうぞとおもてなしをしてあげた。

そして娘さんは、明日の朝のミンソ汁、私がお札に作ってあげよう。つくりお休みなさい・・・とのことであった。次の日の朝、おいしいミンソ汁を頂いて娘さんは山の上のお寺さんへと向った。

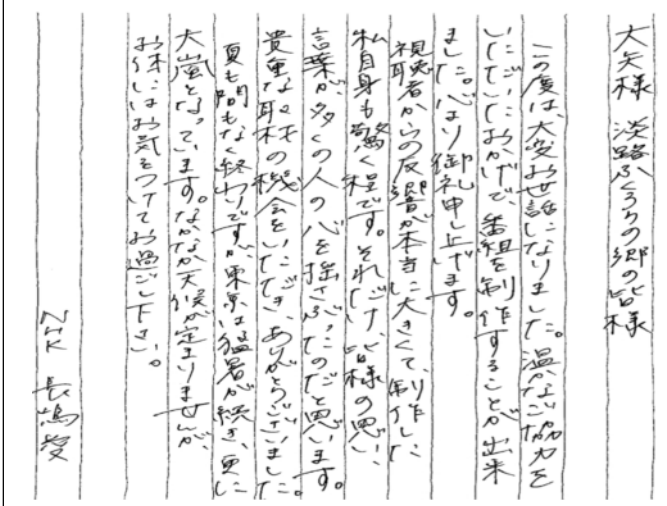
そしてまた夕闇迫るころ、再び娘さんが来られ「朝のミンソ汁つくって頂きました。」そして興平さん、私は見ているとおり一人者「どうかお嫁さんになっておくれ・・・」とお願いしたところ、それきりこなくなり「アア、あれはあのときの鯉では・・・」と興平さん。

いつもご支援ありがとうございます。



金募 1,083,049円が、となりました。前月より17,295円の増額です。

(9月1日現在)



NHK Eテレ『わたしが見た“ろう者の戦争”』の長島ディレクターからお手紙をいただきました。

ひとりひとりを大切に ともに生きる

ひょうご聴覚障害者福祉事業協会では職員を募集しています

～あなたもともに働きませんか～

- ・特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 (生活支援員・看護師・調理員)
- (詳細はお問い合わせください)

11月19日(土)

採用試験を行います。

0799-25-8550 (橋詰) まで

行事・予定

9/22 (木・祝) 理事会・評議員会

10/1 (水) 洲本第一小学校来所 (31名)

10/23 (日) ふくろうの郷 10周年記念 第11回ふれ愛まつり